

GLOBAL REPORT

第29号 7月10日

1学期もあと数週間です。みなさんどんな1学期を過ごしましたか？
今年のグローバルレポートはまず、海外で暮らす出雲高校の先輩をご紹介します。
その後、担当の自己紹介&ミニ宿題と続きます。

「飛び込む勇気を」

44期 古瀬敬之氏

「英語ペラペラなんでしょう？」。よく聞かれます。その理由は、私が共同通信社という報道機関の記者で、2016年10月からニューヨーク特派員をしているからです。



共同通信と聞いてもピンとこないと思いますが、皆さんおなじみの山陰中央新報のほか、毎日新聞、産経新聞、NHKなど全国各地の新聞社や放送局がお金を出し合って運営している会社です。日本全国、世界各地に記者がいて、松江支局もあります。新聞社や放送局に記事を送り、紙面や放送に役立ててもらいます。山陰中央新報に掲載された記事で【ニューヨーク共同】で始まるものがあれば、私が書いた記事かもしれません。

私が扱うのは主に経済ニュース。例えば、トランプ大統領が「トヨタは米国に工場をつくれ！」などと発言すると、どこにいてもすぐに記事の執筆に取りかかります。トイザラスなど米国の有名企業が経営破綻したり、合併したりした時も同様です。オフィスにいるばかりではありません。東芝の子会社が請け負った原発の建設現場、中西部の大豆・トウモロコシ農家、鉄鋼業の衰退で寂れた地方都市—。こんな現場に出向き、そこにいる人たちから話を聞いて記事を書くこともあります。

さて、冒頭の質問にどう答えるか。「冷や汗をかいてばかりです」。取材する相手に質問の意図は正確に伝わっているか、重要な話を聞き漏らしていないか、誤訳していないか…。毎日こんな調子です。とっさに言葉が出てこないことも多いです。発音が悪いせいで「なんだって？」と幾度も聞き返されたことも数知れず。心が折れそうになるたびに「会話に才能は必要ない。君は日本語が話せない日本人を知ってるか？」という知人の言葉で自らを奮い立たせる一方、出雲高校でお世話になった英語の先生を恨んだりもします（嘘）。



現場に足を運び、顔を合わせると、ネットで調べるだけでは分からない本音が聞けます。オフィスの外に出て多様なバックグラウンドを持つ人たちから話を聞くのは何より面白いですし、どんな英語教材よりも役に立つと実感しています。英語で失敗続きの40代のおっさんもへこたれず、現場を駆け回っています。英語が得意でない尻込みしているあなた。勇気を出して異国に飛び込んでみてはいかがでしょうか？

～グローバルレポート担当 吉野 愛～

出雲にご縁があって2013年から2017年まで大社に住み、出雲高校に海外交流アドバイザーとして勤務していました。

神戸出身で、中3で家族と共に渡米。米国の大学を卒業後、生活拠点を広島、台北、神戸、出雲と移しました。2017年12月に米国の永住権が取れたため、再び渡米して就職活動しており、履歴書を書く毎日です。大卒の頃の就職活動とは全く異なり、働く目的がただ「お金を稼ぐ」ではありません。どこで何のために働くのか。働くことで自分がより幸せになれるか。周りの人や環境ももっとHappyになれるか。そんな観点で会社を探しています。

日本や世界に関する基本的な知識を学んだ上で、自分の考えをどう応用して仲間とどう行動していくかに関心があります。知識をただ知っているだけではなく、他の人に伝えたり、知識を使って何かをしたりすることが楽しいのだと思います。

私は再渡米してからネットで“Genius Coaching”という指導を受け、時間管理や集中する方法、呼吸法、人間関係などについて学んでいます。コーチのJay Shettyには素晴らしい名言が沢山ありますが、その中で私の心に響く名言を皆さんに。

Two things prevent us from happiness:

1. Regrets about the past
2. Anxiety about the future

Both can be changed ONLY today.

By Jay Shetty

夏休みに、ぜひ読書・TED Talks鑑賞をお勧めします。

お勧めの本： Simon Sinek 著書 “Start with Why” ※この本には、日本の事にも少し触れていました。

TED Talks： “How great leaders inspire action” by Simon Sinek